

事務事業マネジメントシート(平成27年度実績と平成28年度計画)

平成29年 3月 6日更新

事務事業名		社会を明るくする運動事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり			所属部	総務部	課長名	財津公正
	施策	2	防犯対策の推進			所属課	総務課	担当者名	大賀盛博
	施策の柱	8	防犯意識の高揚			所属班	交通防災班	(内線)	1212
予算科目		会計一般	款 2	項 1	目 4	事業連番 10032	根拠法令	成果優先度評価結果	⑥
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 27年度で終了 <input type="checkbox"/> 27年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	・犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築くため、啓発を行うもの。 昭和26年7月犯罪の防止と犯罪をした人たちの立ち直りには、一般市民の理解と協力が不可欠であるという認識を深めた法務府(現在の法務省)は、この啓発活動を将来とも継続していく必要があるとして、“社会を明るくする運動”と名付け、国民運動として世に広げることとなった。 市において推進委員会を設置し、青少年育成会議と一緒に推進大会を実施し、各種街頭啓発活動を実施している。
【業務の流れ】	・実施計画の作成、実施委員会の開催、啓発運動に伴う各商店への依頼キャンペーン用品の申し込み、支払い、用品の配布、市内全域での広報活動作文コンクールの実施(学校への依頼、受付、審査依頼、報告)、広報誌へ掲載
【主な予算費目】	・需用費(消耗品費)
【意見や要望】	・実施委員会の中で、住民に主旨が理解されていない、効果的な啓発が必要である、との意見があった。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 27年度実績(27年度に行った主な活動)(DO)	・広報紙や各種媒体により広報活動を行なった。 また、今年度から推進委員会と青少年育成市民会議による合同の大会を開催し、本運動の推進を図った。	28年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) ・広報誌をはじめ、媒体を使った広報活動・高齢者教養講座における啓発・ことぶき大学における啓発・わんぱく相撲における啓発・保護観察所職員講話・関係団体との街頭啓発・作文コンクール
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 件	予算の主な増減の理由
⇒ア:運動関連行事数		・啓発用消耗品の個数精査に伴う減
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
・市民		(単位) 人
		⇒ア:市民
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
・本運動について理解してもらう		(単位) 団体
		⇒ア:本事業に参加した団体数
*③成果指標設定の理由と28年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
・本運動について理解してもらうことを、事業に参加した団体数で判断するもの。		全体計画
		～年度
		0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	25年度実績(決算)	26年度実績(決算)	27年度目標(当初予算)	27年度実績(決算)	28年度目標(当初予算)	29年度予定	30年度見込	31年度見込
①	活動指標	ア:件	9	10	12	0	12	12	0	0
②	対象指標	ア:人	58,237	0	59,333	0	59,881	60,429	0	0
③	成果指標	ア:団体	12	0	12	0	12	12	0	0
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	人件費	一般財源	千円	149	211	154	122	177	200	200
		(A)事業費計	千円	149	211	154	122	177	200	200
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	4	0	5	0	5	5	5
トータルコスト(A)+(B)	延べ業務時間	時間	33	0	82	0	82	82	82	
	(B)人件費計	千円	131	0	326	0	326	326	326	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	280	211	480	122	503	526	526	

事務事業名	社会を明るくする運動事業	所属部	総務部	所属課	総務課
-------	--------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部 (CHECK)

*原則は27年度の事後評価、ただし複数年度事業は27年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①27年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②28年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 ・協力要請、運動の周知・啓発を行い、目標達成に努める。
有効性評価	③成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 ・運動のより一層の周知啓発を図り、働きかけを行うことで成果の向上余地がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ・7月を全国一斉に社会を明るくする運動の強調月間とし活動しているもので、他に手段はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 成果を維持、向上させるためには削減の余地はない
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 活動を行う上で必須となる人件費のみであり、また、行政と関係団体との連携が必要なるため、成果を維持・向上させるためには削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 ・市民に対し、運動の啓発を行うもので公平である。
	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 更正について市民の理解を深め、立ち直りやすい環境をつくることは市の役割であり、適正である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

作文コンクールへの応募が150件あり、小中学生への啓発が活発に行えたと考えられる。今後も工夫した啓発を行なうことで運動への理解を深める。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

<p>(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (公平性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策</p>																						